

## 感染状況

- **新規陽性者数は、11週連続で増加傾向が続き、直近1週間は1日平均1万人程度で推移。陽性率も増加傾向にあり、感染拡大の兆候となる20・30代新規陽性者数7日間移動平均前日比も1を超過した状態が継続。**
- オミクロン株の亜系統が複数確認されているが、府では、ゲノム解析上、亜系統の増加はあまり見られない（ただし、ゲノム解析は、陽性判明から結果判明までタイムラグ有）。
- 新規陽性者のうち、**自己検査を実施し、陽性者登録センターに登録した方の割合は2割強で推移**（発熱外来ひっ迫を回避するための自己検査の割合目標は5割）。
- 直近1週間で、特に**高齢者施設関連のクラスター発生数が増加**。
- ワクチンの3回目接種の割合は、全年齢では約6割であり、30代以下では5割を下回っている。4回目接種の割合は、65歳以上で78.9%、5回目接種の割合は、65歳以上で42.3%。**オミクロン株対応ワクチン接種の割合は、全年齢で26.2%（65歳以上では49.3%）。**
- なお、現時点において、**府における季節性インフルエンザは、第50週（12月12日～18日）では0.82と、流行期入りの目安である1に近づいており、今後、1月から2月にかけて、新型コロナウイルス感染症と同時流行の可能性も考えられる。**

【参考】第111回（令和4年12月21日）アドバイザリーボード「感染の増加要因・抑制要因について」

- **ワクチン接種および感染による免疫等**：ワクチン接種の推進もあり、オミクロン株（BA.4-5）に対する免疫保持者割合は各年代で増加傾向がみられ、特に高齢者層ほど割合の増加が進んでいると考えられる。一方で、ワクチン接種と自然感染により獲得した免疫は、経時的に低下していくと考えられる。
- **接触状況**：夜間滞留人口について、地域差がみられるが、東京や愛知、大阪などの20-22時滞留人口については、足元で感染発生後最多の水準で推移している。加えて、年末年始における接触機会の増加等が懸念される。
- **流行株**：国内では現在BA.5系統が主流となっているが、BQ.1系統やXBB系統などのオミクロン株の亜系統は、より免疫逃避能があるとされ、海外で感染者数増加の優位性が指摘されている。特にBQ.1系統は国内で割合が増加しつつあり、注視が必要。
- **気候・季節要因**：冬が本格化し全国的に気温の低下がみられ、換気がされにくい状況となっている。また、冬の間は呼吸器ウイルス感染症が流行しやすくなる。

## 入院・療養状況

- **発熱外来ひっ迫判断の参考指標**（直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数（HER-SYSに登録があった者に限る）、1週間平均陽性率、医療機関における検査数の1週間平均）は、**ひっ迫の目安を満たしていないものの、数値はいずれも増加。**
- **病床（重症病床及び軽症中等症病床）病床使用率は、12月25日時点で53.7%と増加が続き、23日に大阪モデル「非常事態」移行（赤信号点灯）の目安50%を超過。**軽症中等症病床運用率は、約6割に増加しており、20日に受入医療機関に対し、フェーズ5（緊急避難的確保病床を含む）への移行を要請。
- **一般救急患者の搬送困難事案件数が増加傾向。**
- 全数届出見直し後（R4.9.27以降）における重症化率・死亡率（12月18日判明時点）は、第六波を下回った状態が続いている。

## 今後の対応方針について

- 新規陽性者数は増加が続いており、感染拡大兆候探知の目安となる20・30代新規陽性者数7日間移動平均前日比も1を超過した状態が続いている。**今後、年末年始を迎え、普段接しない人との接触機会が増加する一方、気温の低下により換気がなされにくくなるなか、更なる感染拡大の可能性**がある。  
(令和2年、令和3年は、いずれも年末年始に感染が急拡大)
- **発熱外来のひっ迫は現時点で見られないが、感染拡大と季節性インフルエンザの同時流行（今後、可能性あり）に伴い、ひっ迫の可能性**がある。**病床使用率については、大阪モデルの「非常事態」（赤信号点灯）の移行目安を満たしており、感染拡大または現時点の感染規模が続けば、当面、病床使用率のさらなる増加が続き、増加により医療提供体制のひっ迫が深刻になる可能性**がある。  
なお、年末年始は、医療機関の診療検査・治療に係る受入体制が平日と比べるとやや脆弱化するなか、新規陽性者数が1万人前後またはそれ以上確認される場合、発熱外来を含め、医療提供体制はひっ迫する恐れがある。



医療提供新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行に備え、

- 府民においては、**帰省や旅行、外出時は、感染予防対策（三密（密接・密集・密閉）回避、適切なマスク着用、手洗い、こまめな換気等）と、特に普段接しない人と会食する際は、マスク会食等を徹底いただくことが必要**である。
- また、今後、発熱外来がひっ迫する恐れがあることから、重症化リスクの高い高齢者等を守るため、**重症化リスクの低い方（65歳以上の高齢者・重症化リスクのある方・妊婦・小学生以下に該当しない方）が発熱等の症状を有する場合は、自己検査を行っていただくことが望まれる（症状が重いなど受診を希望する場合を除く）**。
- 府としては、引き続き、**発熱外来の強化や病床確保、自宅療養支援の強化などに取り組むとともに、12月26日から当面の間、インフルエンザ疑い患者への相談等の体制確保や、28日からの入院患者待機ステーションの再開など、医療療養体制の強化を図っている**。**感染急拡大が見られた場合は、医療機関に対する発熱外来等の実施要請や大阪コロナオンライン診療・往診センターの体制強化を図っていく**。